

記 入 上 の 注 意

この支給認定申請書は、保護者が次の点に注意し記入のうえ市町村役場に提出して下さい。なお、その家庭から2人以上の児童が同時に申請を行う場合は、それぞれの児童ごとに1枚の用紙を用いて下さい。

(表面)

- 1 「申請に係る小学校就学前子ども」の欄は「氏名(利用希望児童)」にふりがなを付し、「性別」の欄は該当するものを○で囲んで下さい。
- 2 「障害者手帳の有無」の欄は、申請児童に係る障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳等)の有無について、該当する□にチェック☑をつけて下さい。
- 3 「認定者番号」の欄は、申請児童が既に施設型給付費・地域型保育給付費の支給認定を受けている場合は、当該申請児童に係る認定者番号を記入して下さい。
- 4 ①「世帯状況」の欄は、利用希望児童本人を含めて両親及び同居している親族等の全員について記入するとともに、「性別」欄は該当するものを○で囲んで下さい。
- 5 ②「利用を希望する期間」の欄は、最長で年度末(3月31日)までを記載してください。一年毎の審査・更新となります。
- 6 ②「希望する施設(事業者)名」の欄は、希望する順位に従い施設(事業者)名を記入し、また、その施設(事業者)を希望する理由(例えば、既に兄弟が利用しているため、延長保育(預かり保育)を実施しているため、自宅に近いため等)を記入して下さい。

(裏面)

- 7 保育の認定基準は、次の表に掲げるような場合です。

保育の認定基準

保育の必要性の認定を受ける場合は、原則的に一緒にお住まいの親族の全員が次のいずれかの事情にある場合です。

- (1) 就労等(家庭外労働) 児童の保護者が家庭の外で仕事をするため、児童の保育ができない場合
(家庭内労働) 児童の保護者が家庭で日常の家事以外の仕事をするため、児童の保育ができない場合
- (2) 妊娠・出産 児童の保護者が出産の前後のため、児童の保育ができない場合(期間が限定されます。)
- (3) 疾病・障害 児童の保護者に病気、負傷、心身に障がいがあり、児童の保育ができない場合
- (4) 介護等 児童の家庭に介護が必要な高齢者や、長期にわたる病人、心身に障害のある人、小児慢性疾患に伴う看護が必要な兄弟姉妹がおり、保護者がいつもその同居又は長期入院・入所している親族の介護・看護にあたるため、児童の保育ができない場合
- (5) 災害復旧 火災や、風水害や、地震などの災害に遭い、居宅を失ったり、損壊したため、その復旧の間、児童の保育ができない場合
- (6) 求職活動 児童の親が求職活動(起業準備を含む)を行っているため、児童の保育ができない場合(期間が限定されます。)
- (7) 就学 児童の親が就学(職業訓練校等における職業訓練を含む)のため、児童の保育ができない場合

- 8 ③「保育の利用を必要とする理由等」の欄は、表面の①「世帯の状況」の欄に記入した児童の世帯員のうち、両親については、保育事由を申請書記載の番号を父母それぞれに記入し、該当の欄の必要事項を記入して下さい。同居している親族等については、児童を保育できない理由を7の表(1)～(7)のいずれの掲げる場合に該当するかを判断して、該当する□にチェック(☑)し、かつ、その具体的な状況について、同欄に記入して下さい。

※ 具体的な状況について、例えば、(1)に該当する場合は勤務先・就労時間・就労日数・通勤時間・経路・手段等、(2)では出産(予定)日や産後の母の状況等、(3)では傷病名や治療見込期間、障害の程度等、(4)では介護している高齢者の介護度や看護している病人の傷病名や治療見込期間等、(5)では災害の程度・復旧見込み期間等、(6)では求職活動状況等、(7)では就学先・就学期間・就学時間・就学日数等、(8)ではその他に記載した内容の具体的な状況を記入して下さい。(就労証明書等の証明書により確認をさせていただきます)

- 9 ③「家庭の状況」の欄は、該当する□にチェック(☑)してください。

(留意事項)

支給認定(保育の必要性の認定)及び施設(事業者)への入所については、

- ・ 保育の実施基準に該当しないため、希望する認定が受けられない場合
- ・ 希望者が多数いるため希望する施設に入所できない場合
- ・ 保育の実施基準の該当事由により利用期間の希望に添えない場合がありますので、あらかじめご承知おき下さい。